

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4679200099
法人名	有限会社 こぼれ陽
事業所名	グループホーム こぼれ陽
訪問調査日	平成 22 年 2 月 4 日
評価確定日	平成 22 年 3 月 10 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4679200099
法人名	有限会社 こぼれ陽
事業所名	グループホーム こぼれ陽
所在地	鹿児島県大島郡天城町天城783番地 (電話) 0997-85-4073

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号
訪問調査日	平成22年2月4日
評価確定日	平成22年3月10日

【情報提供票より】(平成22年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	6 人	常勤 5 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 5.3 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,500 円	その他の経費(月額)	3,000 円 (洗濯代)
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,080 円	

(4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	6 名	男性 1 名	女性 5 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 90 歳	最低 83 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳之島徳州会病院 ・ 天城歯科診療所
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

徳之島で初めて開設されたグループホームこぼれ陽は、民家を増築し6名の利用者と管理者も寝起きを共にしている。広い庭に、にわとりが放し飼いにされ、パパイヤ、バナナ、タンカンなど20種類近い果物や野菜が植えられ、毎日の食卓に安心して安全な旬の食材として提供されている。管理者は、自らの信条を理念とし職員も共感し日々の介護にあたっている。利用者には、今まで生きてきたすべての重荷を解いて安心して旅立ってもらいたいという思いで支援し、利用者は、自宅にいるように自分でできることを手伝い、自由な時間を楽しみながら職員と喜怒哀楽を共にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題は特になかった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員で何日かかけて話し合いながら意見をまとめている。職員はケアの振り返りの機会としている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は地域代表、町担当者、包括職員、4家族が参加している。事業所の現状報告を行い、テーマを決めた話し合いをしている他、認知症についての勉強会や認知症のかかわり方、医療制度についての研修を行いながらサービスに活かせるように努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用人数が少ないこともあり、運営推進会議にはほとんどの家族が参加している他、クリスマス会には家族を呼び意見を頂く機会を作っている。退所した方の品物を有効利用し家族の負担を軽減することで感謝の言葉を頂くことが多いが、運営に関する意見をもらえるように、面会時など個別に対応し些細な事にも耳を傾けるように取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ゴミ出しや散歩の時には近隣住民と挨拶し、言葉を交わすなど交流している他、地域の幼稚園や小学校の運動会、学習発表会などに出かけている。管理者は、老人会で認知症についての講演や認知症サポーター養成講座の開催をするなど地域貢献をしている。認知症介護について心得のある方の聞き役ボランティアなどの受け入れもっている。

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「この、いと小さき者の一人にしたことは、私にしてくれたことである。」という聖書の言葉を理念とし、職員も共感し共有している。地域密着については、意識して取り組んでいる。	○	管理者が信条としている理念の他に、地域密着型サービスを意識できるような理念なり、目標なりを職員と話し合っ て作られることを希望します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングなどで理念について話し合い、利用者一人ひとりを大切に思い、丁寧な支援ができるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	集落の中にあるホームは、隣近所にも近くお互いに声を掛け合うお付き合いをしている。町の宅配食を近所の高齢者宅へ利用者と一緒に届けている。幼稚園や小学校の運動会、学習発表会、トライアスロンの応援などに参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員一緒に何日間かけて話し合いながら作り上げている。職員は、ケアの振り返りの機会としている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は地域代表、町担当者、4家族が参加して開催している。事業所の現状報告後にテーマを決めた話し合いを行っている他、認知症についての勉強会や認知症の関わり方、医療制度についての研修を行いながらサービスに活かせるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、町主催のケア会議のメンバーとして参加しているため情報交換を行っている他、共同で認知症養成講座の開催を行い理解への取り組みをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は全員島に在住しているので、毎月自宅に訪問し、請求書を渡し情報を交換している。また、面会も多く、利用者ごとに綴ってある写真を見てもらったり、日頃の様子や健康状態などの報告をしている。金銭の預かりはしていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には4家族が出席し、クリスマス会にも家族に参加してもらうため家族が意見や要望を表す機会はあるが、運営についての意見をもらえるように面会時に個別に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職も少なく、馴染みの職員によるケアがされている。新しい職員が入った場合でも、事業所のエプロンをつけてケアにあたっているので利用者へのダメージは殆ど見られない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者の経験や技術を活かした内部研修を行っている他、認知症の外部研修には全員参加するようにしている。意欲的な職員の資格取得の支援も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大島地区GH連絡協議会に加入し、管理者の交流を行っている。徳之島の中で職員を交代して交流しようという意見が出ており検討中である。他のホームの職員の見学を受け入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅に何度か訪問し本人、家族の意向を確認する他、家族、本人と2～3日通ってもらい雰囲気を感じてもらいよく話し合い、納得してから入居してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者や職員は認知症という内容にとらわれず、本気で利用者向き合いぶつかり合う中で信頼関係が築かれている。暴言を吐かれた後に「ありがとう」と利用者から言われた職員は、うれしく思い仕事のやりがいを感じている。利用者と共に祈りしたり、歌を歌ったりと支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者に向き合って話を聞くようにしている。ケア記録にその人の態度、言った言葉を拾い上げ丁寧に記録している。周辺症状を理解し、原因の究明に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議で職員から気づきの内容を聞き取り、自宅に訪問した際に家族から直接意向を確認している。介護計画は、利用者がより良い生活を送るための家族や職員の意見、かかりつけ医のアドバイスなどを反映したものとなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は、まるごととらえるシートを活用し、利用者の発した言葉や行動について記録し毎日のミーティングで話し合っている。これを基に保険期間内見直しや小さな状態変化に対応している。入退院があった場合には、家族、関係者と話し合い新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師による健康チェック、かかりつけ医の往診、職員による病院受診などに対応している他、特別外出支援として、自宅に行きたい、自分のみかん園に摂りに行きたい、教会に行きたいなど、一人ひとりの要望に応じた柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、いつでも駆けつけてくれる医師に、かかりつけ医をお願いすることを了解してもらっている。かかりつけ医とはいつでも情報交換し連携が取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者と職員は、本人、家族が希望すれば最後までここで看取することを共有している。身体状況の低下に応じて家族と話し合いを繰り返す中で同意も得るようにしている。今までに数名の看取りも経験し、身寄りの無い利用者の葬儀もホームで行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員の対応について、利用者の反応が悪い時には、何故そうなったかを考えさせるようにしている。職員は、利用者一人ひとりに応じ、尊厳をもった言葉かけや態度をとるようにしている。記録物の保管についても適切になされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床後、みんなで顔を合わせてお茶を飲むことを日課としている以外は、個々のペースに合わせている。裁縫道具を持っている方は、はぎれを使って縫い物をしたり、菜園の草取りなどをしてもらっている。もっと部屋で楽しめるようアイデアを出しあっているところである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を取り入れながら、庭で採れる新鮮な旬の野菜や果物を使っている。利用者の力量に応じて、野菜の下ごしらえや皮むきなどを手伝い、食事前には賛美歌を歌いお祈りしてから、ゆっくり職員と食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や、その日の気温によって入浴時間も対応し、順番も本人の意思を尊重している。湯舟には、乾燥させたみかんの皮やよもぎの薬草を入れるなど楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は何かの役に立ちたいという思いを持ち、カーテンの開閉、テーブル拭き、テレビを付ける、お茶碗を運び、にわとりの餌作り(包丁を使い細かく刻む)は皆で行っている。楽しみごと気晴らしは、季節毎の行事の他、島外への一泊旅行、天気を見ながらのドライブや遠足などをである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関ポーチと庭にテーブルと椅子が置かれているので、天気の良い日には、お茶をしたり散歩後の休憩場所として活用している。利用者と一緒に特売の買出しに行ったり、ゴミ出しなど一緒に出かけられるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は24時間鍵をかけず開放的である。外出傾向にある利用者は把握をしているので、見守りでの支援をしている。一人で出かけた場合には、地域の方の連絡と協力が得られている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回は消防訓練をすることになっているが、昨年まではできていない。近隣や消防団とは連携し、協力を依頼している。	○	あらゆる災害を想定した訓練を行い、職員が自信をもって対応できるように訓練の回数を増やされることを希望すると共に、地域消防団の協力が得られるように働きかけられることを希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、栄養士の職員が確認し、栄養、水分の必要性を認識した上で摂取量の目安を決め把握に努めている。特に水分を十分摂れるように、起床後はお茶の時間を設けている。食事形態は、それぞれの状態にあわせ対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の住宅に増築しているので、玄関の段差、お風呂などはそのまま家庭そのものの生活感がある。増築では、死角になるがプライバシーの空間を作っているため、職員は注意力を持って見守るようにしている。リビングのテーブルに座ると喫茶店に来たようで、庭に植えられた果物や花から季節を感じることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳みの部屋に自分の布団を敷いたり、フローリングの部屋にベットを置いたり、使い慣れたタンスや布団、毛布、茶碗、湯飲みなどの他、大切にしている、位牌やマリア様の像などを持ち込みそれぞれに合ったお部屋になっている。		